関西経済連合会　「うめきた専門委員会」　中間とりまとめ

2012.12.10
公益社団法人　関西経済連合会

開発コンセプト

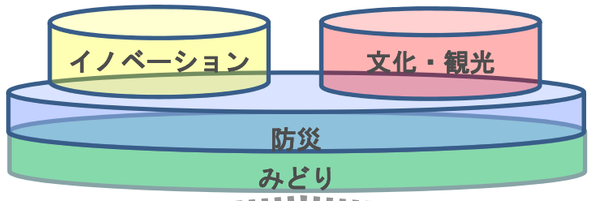
○梅田地区は、過去の歴史からも、人・情報の一大交流拠点。民間主導で多くの画期的取組を展開してきた。現在においても、地理的に関西の中心である他、交通結節点として国内他都市・世界と繋がる。

民の知恵･資金を活かすことにより、うめきたの”交流・連携拠点”としての高いポテンシャルを関西・日本の経済成長へと繋げることが重要。

○本年６月に発表された「グランドデザイン・大阪」においては、緑を軸とした開発を進める方向が示されたところではあるが、**一定の都市機能を備えた街とすることが重要。**

○うめきたの高いポテンシャルを十分に活かすため、うめきたは、**「緑」と「防災」を基盤としつつ、「イノベーション」「文化・観光」を軸とした街**を目指すべき。
（「防災」については、既に、大阪地区における基幹的広域防災拠点の司令塔機能を担う候補地点とされている）

開発コンセプト



緑地

○緑地については、**都市格向上、賑わい・集客効果を目的とした機能**や、**視覚効果**を持たせるべき。

○今回の中間取りまとめにおいては、敷地の中央付近に恒久緑地を確保。それ以外の部分には、都市機能集積を担う「民間参加型開発地」や、将来の中核的な公的機能導入を担う「暫定緑地」を設定。

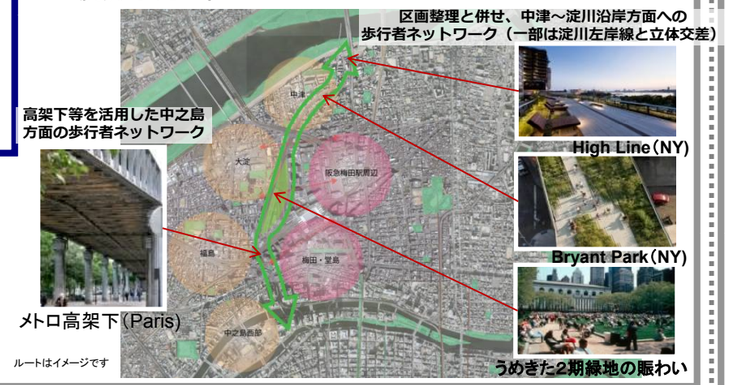
○**恒久緑地の重層的利用**を図るため、「立体都市公園制度」など、現状制度に対する改善要望を行っていくことが必要。

○暫定緑地部分には、関西広域の防災司令塔機能を設置すること等が考えられる。

緑地配置パターン

周辺への波及効果

○緑地整備による周辺への波及効果をもたらすため、**南北歩行者ネットワークを構築**することを今後検討したい。

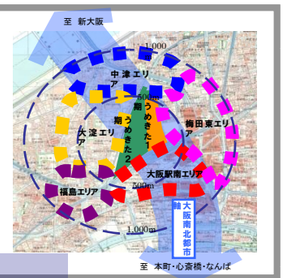


民間参加型開発

○２期開発を成功させる上では、**１期に芽生えつつあるイノベーションの「芽」を他の特区地域とも連携しながら大きく育て、２期へと展開していくことが必要。**

○**みどり等のコンセプトを踏まえ、一定の時間をかけた新しい形の民間参加型開発を進める。**

○うめきたと隣接エリアとは徒歩圏内。大阪南北軸の基点であるうめきたに企業・ヒトの集積を生むことで、**周辺地域や大阪全体への経済波及効果を生み出すことが期待**される。



鉄道整備

○東西方向の分断解消、関空アクセス改善のため、既に都市計画決定されている**ＪＲ東海道支線の地下化と新駅設置を早急に事業化**すべき。

○併せて、運政審答申路線に位置づけられ、事業実現化方策に係る検討まで完了している西梅田・十三・新大阪連絡線についても、早急に事業化を決定すべき。**ＪＲ東海道支線の地下化に遅れることなく整備を進められるよう、官民一体で推進**する。

事業スキーム

○区画整理事業や連続立体交差事業等の基盤整備費も含めると、府市だけの資金で全費用を賄うのは困難と想定。

○一方で、開発期間が１０年以上に及ぶため、既存の土地保有スキームでは、資金の調達を促すことは困難。よって、新たな手法として、公的機関や**民間も参画する形で幅広く資金を調達**するための**スキームの構築について今後検討が必要。**

タウンマネジメント

○まちの持続的発展のためには、**官民が連携した「タウンマネジメント」が不可欠。**

○今後、１期ＴＭＯの活動状況も踏まえ、組織のあり方や事業内容等について検討する。

○**ＢＩＤ的手法の導入に向け、国や大阪府・市等と連携していくこととしたい。**